

Sun Java™ System Directory Proxy Server リリースノート (Microsoft Windows 版)

バージョン 5.2 2005Q4

Part No. 819-5829

このリリースノートには、Sun Java System Directory Proxy Server 5.2 2005Q4 (Microsoft Windows 版) のリリース時点で判明している重要な情報が含まれています。既知の問題点と制限事項、およびその他の情報が説明されています。Directory Proxy Server 5.2 2005Q4 をお使いになる前に、このリリースノートをお読みください。

このリリースノートの最新バージョンは、<http://docs.sun.com/app/docs/prod/entsys.05q4#hic> で参照できます。Directory Proxy Server 5.2 2005Q4 に更新する前、およびその後も定期的に Web サイトを参照して、最新のリリースノートや製品マニュアルを確認してください。

このリリースノートは、次の節で構成されています。

- [リリースノートの変更履歴](#)
- [Directory Proxy Server 5.2 2005Q4 の概要](#)
- [このリリースで修正されたバグ](#)
- [重要な情報](#)
- [既知の問題および制限](#)
- [再配布可能なファイル](#)
- [問題の報告とフィードバックの方法](#)
- [その他の情報](#)

このリリースノートで参照先として示しているサードパーティーの URL で、追加情報や関連情報を得ることができます。

注 Sun は、このリリースノートで示されているサードパーティーの Web サイトを使用できるかどうかについては責任を負いません。また、これらの Web サイトまたはリソースで利用可能なコンテンツ、広告、製品、またはその他の資料を保証したり、これらに対して責任を負ったりすることはありません。さらに、これらの Web サイトまたはリソース上で、またはこれらを通して利用可能なコンテンツ、商品、またはサービスにより生じた、またはこれらを使用または信用したことに関連する実際の、または申し立てられた損害や損失に対しても責任を負いません。

リリースノートの変更履歴

表 1 変更履歴

| 日付 | 内容 |
|----------|---------|
| 2006年2月 | 商用リリース |
| 2005年11月 | ベータリリース |

Directory Proxy Server 5.2 2005Q4 の概要

Directory Proxy Server 5.2 2005Q4 は、Sun Java Enterprise System の一部で、エクストラネットとイントラネットの両方のディレクトリインフラストラクチャーに対して、高可用性、セキュリティ、およびクライアント互換性機能を提供します。Directory Proxy Server のマニュアルとコンソールには、製品のバージョン番号が 5.2 と表記されている部分があります。

ハードウェアおよびソフトウェアの要件

このリリースの Directory Proxy Server には、次のハードウェアおよびソフトウェアが必要です。

表 2 Windows の場合のハードウェアおよびソフトウェア要件

| コンポーネント | プラットフォームの要件 |
|--------------|---|
| オペレーティングシステム | Windows 2000 Advanced Server, Service Pack 4 Windows 2003 Enterprise Server Windows XP Professional, Service Pack 2 |
| RAM | 512M バイト |
| ディスク容量 | 200M バイト |

注 Directory Proxy Server 動作は、Microsoft Windows 2000、Microsoft Windows 2003、Microsoft Windows XP で確認されています。

このリリースで修正されたバグ

表 3 Directory Proxy Server 5.2 2005Q4 で修正されたバグ

| バグ ID | 内容 |
|---------|---------------------------------------|
| 6291549 | FAT32 ファイルシステムへのインストール中に DPS の設定に失敗する |

重要な情報

この節には、製品の主要マニュアルには含まれていない最新の情報が含まれています。ここでは、次の内容について説明します。

- [インストール上の注意](#)
- [マニュアルに関する注意事項](#)
- [障害者のためのアクセシビリティ機能](#)

インストール上の注意

パッチの要件とインストールについては、次の節を参照してください。

- [パッチ要件に関する情報](#)
- [一般的なインストール情報](#)

パッチ要件に関する情報

次の表に、整合パッチの番号と最低バージョンを示します。ここに記載されているパッチはすべて、アップグレードで必要とされる最低バージョンです。このドキュメントの出版後に新しいバージョンのパッチが発行されている可能性があります。新しいバージョンには、パッチの末尾に異なるバージョン番号が示されています。たとえば、123456-04 は 123456-02 よりも新しいバージョンですが、パッチ ID は同じです。各パッチに固有の手順については、README ファイルを参照してください。

パッチを利用するには、<http://sunsolve.sun.com> にアクセスしてください。

表 4 Windows 版の Directory Proxy Server 5.2 2005Q4 の整合パッチ

| パッチ番号 | パッチの説明 |
|-----------|--|
| 121529-01 | Windows (MSI): Sun Java™ System Administration Server 5 2005Q4 |
| 121392-02 | Windows (MSI): Sun Java™ System Directory Server 5 2005Q4 |

表 4 Windows 版の Directory Proxy Server 5.2 2005Q4 の整合パッチ (続き)

| パッチ番号 | パッチの説明 |
|-----------|---|
| 121534-01 | Windows (MSI): Sun Java™ System Directory Proxy Server 5 2005Q4 |

Directory Proxy Server を JES3 から JES4 にアップグレードするための手順については、『Sun Java Enterprise System 2005Q4 Upgrade Guide for Microsoft Windows』 (<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-4461>) を参照してください。

一般的なインストール情報

Directory Proxy Server 5.2 2005Q4 を Windows プラットフォームにインストールする場合は、インストールする前に、『Sun Java Enterprise System インストールガイド』を参照してください。

SSL 用証明書のための Directory Proxy Server の設定

SSL を利用した通信を行なうための Directory Proxy Server 5.2 2005Q4 の設定方法については、『Directory Proxy Server 管理ガイド』を参照してください。

インストールのログファイルの検索

インストール中に生成されるログファイルについては、以下の表を参照してください。

表 5 インストールのログファイルが保存される場所

| プラットフォーム | ログ (管理者) |
|----------|--------------------------------|
| Windows | [INSTALLDIR]¥Server-Root¥setup |

マニュアルに関する注意事項

ローカライズされたマニュアルは、利用可能になった時点で <http://docs.sun.com/> に掲載されません。

障害者のためのアクセシビリティ機能

このメディアの出版以降にリリースされたアクセシビリティ機能入手するには、Sun に米国リハビリテーション法 508 条に関する製品評価資料を請求し、その内容を確認して、どのバージョンが、アクセシビリティに対応したソリューションを配備するためにもっとも適しているかを特定してください。更新バージョンのアプリケーションは、

<http://sun.com/software/javaenterprisesystem/get.html> にあります。

アクセシビリティに対する Sun の対応については、<http://sun.com/access> を参照してください。

既知の問題および制限

ここでは、Directory Proxy Server 5.2 2005Q4 (Windows 版) の既知の問題および制限について説明します。

Windows ローカライズ版で DPS 設定に失敗する (6266488)

問題は次の *.cacl ファイルにあります。

- dps52cfgwindowascacls
- dps52inswindowascacls
- dps52svrwindiwscacls

これらのファイルは、インストールされた DPS ファイルのアクセス権を指定します。たとえば、次のような行があります。

```
bin/dps/admin/servlets/dps-server52.jar/g Administrators:f Everyone:r
```

問題は、ドイツ語版 Windows 2000 にユーザー / グループ「Administrators/Everyone」がないことです。これらは「Administratoren/Jeder」と記載されています。ほかのローカライズ版も同様です。

回避策 (インストール後に手動で設定する場合にのみ実行可能):

1. JES インストーラを起動し、DPS を後で設定モードでインストールします。インストールの完了後に、上記の 3 つの *.cacl ファイルを編集し、Administrators を Administratoren に、Everyone を Jeder に変更します。

これは、ドイツ語ロケールに対して推奨される変更です。ほかのロケールに対しても同様の変更を行います。DPS は、config_DPS.txt ファイルに記載されている指示に従って設定する必要があります。

2. ドイツ語版に対応するものと同じ権利を持つグループに Administrators/Everyone を追加します。ただし、セキュリティ上の理由から、これは一部の環境では許可されません。

Directory Proxy Server の起動後に、自動的にネットワーク上で待機しない (4818122)

Directory Proxy Server は、コマンド行から起動した場合、自動的にネットワーク上で待機しません。SSL モードが有効な場合、SSL を起動するためにトークンおよびパスワードを入力する必要があります。トークン要求に成功すると、Directory Proxy Server はネットワークで待機します。

回避策

なし

以前使用した名前でオブジェクトの名前を変更できない (4863003)

オブジェクトの名前は、以前に使用した名前に変更することはできません。たとえば、次のようにオブジェクトの名前を指定して変更することはできません。

- myname-1 という名前でオブジェクトを作成し、これを保存する
- このオブジェクトの名前を myname-2 に変更し、この名前で保存する
- このオブジェクトの名前を myname-1 に戻す

この制限は、設定名を含め、名前が付けられるオブジェクトのプロパティのすべてに適用されます。

回避策

なし

コンソールで設定の名前を変更すると、設定の重複が発生する (4923242)

Directory Proxy Server のコンソールを使用して Directory Proxy Server の設定の名前を変更すると、重複する設定名が作成されます。

回避策

設定のクローンを作成するには、新しい設定を作成し、元の設定に含まれるすべての値を新しい設定にコピーします。

各リフェラルに対してバインドまたはバインド解除が実行される (4943985)

Directory Proxy Server は、バックエンド LDAP サーバーへの既存の接続を再利用する代わりに、各リフェラルに対してバインドまたはバインド解除を実行します。バックエンドサーバーが広域ネットワーク上に配置されている場合は、この問題によってパフォーマンスが低下します。

回避策

なし

バインド要求で、リフェラルを正しく処理できない (4951403)

Directory Proxy Server が他のサーバーに対するバインド要求を実行する場合、DN が返されます。ただし、Directory Proxy Server は、返された DN をサーバーへの接続に使用しません。代わりに、元の DN を使用します。このため、バインド要求は動作しません。

回避策

この機能は、バインド要求でのみ制限を受けます。この機能は、検索要求、変更要求、およびその他の要求では制限を受けません。

SSL が有効な場合に、コンソールからのリモートインスタンスの起動に失敗する (4961059)

Directory Proxy Server のリモートインスタンスで SSL が有効な場合、コンソールを使用してインスタンスを起動または再起動することはできません。PIN ファイルが存在しないことを示すメッセージがコンソールに表示されます。

回避策

サーバー側と同じパスを使用して、コンソール側に PIN ファイルをインストールします。

Directory Proxy Server のコンソールを起動できない (5041840)

インストール後に、設定ディレクトリサーバーよりも先に Administration Server を起動すると、Directory Proxy Server が Administration Server にアクセスできません。この場合、Directory Proxy Server のコンソールは正常に起動できません。

回避策

Administration Server を起動する前に設定ディレクトリサーバーを起動します。

Directory Proxy Server の設定名を変更すると、コンソールがハングアップする (6295155)

コンソールを使用して設定名を変更すると、コンソールがハングアップします。

回避策

なし

Directory Proxy Server のアンインストール中に設定解除に失敗する (6360184)

「変更」モードを使用したアンインストールの場合に、Directory Server やほかの製品と一緒に Directory Proxy Server を選択すると、Directory Proxy Server のアンインストールに失敗します。

回避策

Directory Proxy Server と Directory Server を変更モードでアンインストールする場合は、最初のセッションで Directory Proxy Server をアンインストールしてから、次のセッションで Directory Server をアンインストールしてください。

再配布可能なファイル

Sun Java System Directory Proxy Server 5.2 2005Q4 には、ユーザーによる再配布が許可されているファイルは含まれていません。

問題の報告とフィードバックの方法

Sun Java System Directory Proxy Server で問題が発生した場合は、次のいずれかの方法で Sun カスタマサポートにご連絡ください。

- Sun Software Support Services

<http://www.sun.com/service/sunone/software>

このサイトには、保守プログラムやサポート連絡先の電話番号へのリンクに加え、Online Support Center および Product Tracker へのリンクがあります。

- SunSolve サポートの Web サイト

<http://sunsolve.sun.com>

このサイトには、パッチ、サポートマニュアル、セキュリティ情報、および Sun System Handbook が含まれています。

- 保守契約先に電話連絡してください。

最善の問題解決のため、サポートに連絡する際には次の情報をご用意ください。

- 問題が発生した状況および操作への影響などの、問題の具体的説明
- マシン機種、OS バージョン、および製品のバージョン (問題に関係するパッチおよびその他のソフトウェアを含む)
- 問題を再現するための具体的な手順の説明
- エラーログまたはコアダンプ

Sun Java System Directory Proxy Server の話題が議論されている次のフォーラムを購読すると、有益な情報を得られます。

<http://swforum.sun.com>

コメントの送付先

Sun では、マニュアルの品質を向上するために、お客様からのコメントや提案をお待ちしております。Sun へのフィードバックを送信するには、次の Web サイトのフォームを使用してください。

<http://www.sun.com/contact/feedback/?refurl=http://www.sun.com>

コメントを送信するには、<http://docs.sun.com> に移動し、「コメントの送信」をクリックします。オンラインフォームに、マニュアルのタイトルと Part No. を入力してください。Part No. は、通常、7桁または9桁の数字で、マニュアルのタイトルページまたはドキュメントの先頭に記載されています。たとえば、このリリースノートのタイトルは『Directory Proxy Server リリースノート (Microsoft Windows 版)』、Part No. は 819-5829 です。

その他の情報

次の Web サイトには、役立つ Sun Java System 情報があります。

- Sun Java System マニュアル
<http://docs.sun.com/app/docs/prod/entsys.05q4#hic>
- Sun Java System プロフェッショナルサービス
<http://www.sun.com/service/sunps/sunone>
- Sun Java System ソフトウェア製品およびサービス
<http://www.sun.com/software>
- Sun Java System ソフトウェアサポートサービス
<http://www.sun.com/service/sunone/software>
- Sun Java System サポートおよび Knowledge Base
<http://www.sun.com/service/support/software>
- Sun トレーニングおよびサポート
<http://training.sun.com/>
- Sun Java System コンサルティングおよびプロフェッショナルサービス
<http://www.sun.com/service/sunps/sunone>
- Sun 開発者用情報
<http://developers.sun.com/>
- Sun 開発者サポートサービス
<http://www.sun.com/developers/support>
- Sun ソフトウェアデータシート
<http://wwws.sun.com/software>

Copyright © 2006 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.

本書で説明する製品で使用されている技術に関連した知的所有権は、Sun Microsystems, Inc. に帰属します。特に、制限を受けることなく、この知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> の一覧に示される米国特許、および米国をはじめとする他の国々で取得された、または申請中の特許などが含まれています。

SUN PROPRIETARY/CONFIDENTIAL.

U.S. Government Rights - Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

ご使用はライセンス条項に従ってください。

本製品には、サードパーティーが開発した技術が含まれている場合があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいて開発されている場合があります。

Sun、Sun Microsystems、Sun ロゴ、Java、および Solaris は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用されている、米国および他の国々における同社の商標または登録商標です。